NIE実践報告

1．タイトル：新聞と親しみ、新聞を楽しむＮＩＥ ～新聞と友だちになろう～

２．学校名

長野県飯田市立　鼎小学校

３．実践者名（代表者名）

輿石　慶太

４．学年

6学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語、社会、道徳、総合的な学習の時間　　31名

６．単元（本時の学習課題）名

書き手の伝えたいことを読みとって見出しを付けよう（総合的な学習の時間）

７．目標(狙い)

『10代から』の意見文を読んでタイトルを考える場面で、大事だと思う部分に線を引いたり、班の人の意見を聞いたりすることを通して、書き手が最も伝えたいことを読みとってタイトルを考えることができる。

８．評価の視点

大事だと思う部分に線を引きながら意見文を読んだ活動は、自分の考えたタイトルを根拠に基づいて発表させる手立てとして有効であったか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

NIE実践（総合的な学習の時間）として、全15時間中の第1時。
この単元の週末は、スクラップ新聞を作成することにあるので、見出しを付ける学習を行った。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1　『10代から』に掲載された友だちの意見文を読む。
2　空欄になっているタイトルを予想する。
4　タイトルを付けるときのヒントは何かを考え、発表する
5　配布された意見文のタイトルを考える。
6　自分の考えたタイトルを班の中で発表し、班の中でひとつ、発表するタイトルを決める
7　掲載されたタイトルを見て、自分の考えたタイトルと比較する。
8　本時をふり返り、感想を記入する。
〇指導上の留意点
・児童に配布する記事は、タイトルが見えないように加工しておく。
・児童から出された意見についてはできるだけ教師が返答をせず、児童にどう考えているかを問い返す。
・発表中の発言、表現などについては、その良さを認める。
・自分の考えと実際の記事との比較が「答え合わせ」にならないよう、個の考えを認める。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・子どもたちは大変真剣に意見文を読み、見出しを考えていた。また、自分の意見と友だちの意見を比べながら、もっと分かりやすい見出しは付けられないだろうかと相談し合う姿が多く見られた。さらに、自分の考えた見出しに根拠をもって発表することができた。

12．成果と課題

〇見出しを考えたことで、文章中のキーワードを見つけ要旨を読み取りながら記事を読めるようになってた。国語の授業においても段落ごとに見出しを付ける学習を行ったところ、要旨を的確に読み取れるようになった児童が以前より増えた。
〇新聞を使って授業をする際に、ただやみくもに新聞を使うのではなく、どんな力を子どもたちにつけさせたいか、どんな活動にしていきたいかなど、学習の見通しをより明確にしていく必要がある。